

# 「令和6年度予算編成方針」及び「青森市財政プラン（2019～2023）ローリング版」の概要

## 令和6年度予算編成方針

### 1 予算編成の方向性

- ◇ 「市民力+民間力 AOMORI 次なる舞台へ」のスローガンの下、市民一人ひとりが力を合わせ、市民全員が参加して市政を作り上げていく市民力、そして、民間の企業や団体が力を合わせる民間力、その二つの力を集結させて、青森市を「みんなで未来を育てるまちに」するため、「仕事をつくる」「人をまもり・そだてる」「まちをデザインする」の三つを柱とし、人口減少に立ち向かい、次なるステージに進むための未来を育む事業への予算の重点化を図る。

### 2 マイナスシーリングの廃止（5%→0%）

- ◇ 限られた財源を有効活用し、事業の選択と集中を図りながら、足下の物価高騰による市民生活への影響を踏まえた予算編成を行うため、一部の政策的経費を対象として昨年度実施したマイナスシーリングを廃止する。

持続可能な財政運営の確立

## 青森市財政プラン（2019～2023）ローリング版

### 1 R8 末 財源調整の「基金」60 億円確保

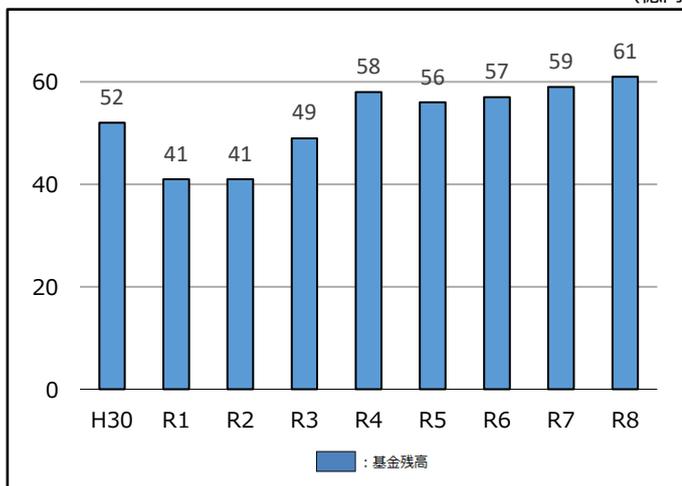
- ◇ 財源調整のための基金について、物価の高騰など支出の増加があるものの、国・県及び本市の経済対策や、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う経済活動の再開による税収の確保等により、令和8年度末の基金残高は60億円確保。

### 2 R8 末「市債残高」の大幅縮減 △237 億円

- ◇ 引き続き市債発行額の抑制に努め、H30年度決算と比較して、R8年度末市債残高（臨時財政対策債を除く）は237億円（872→635億円）の縮減。

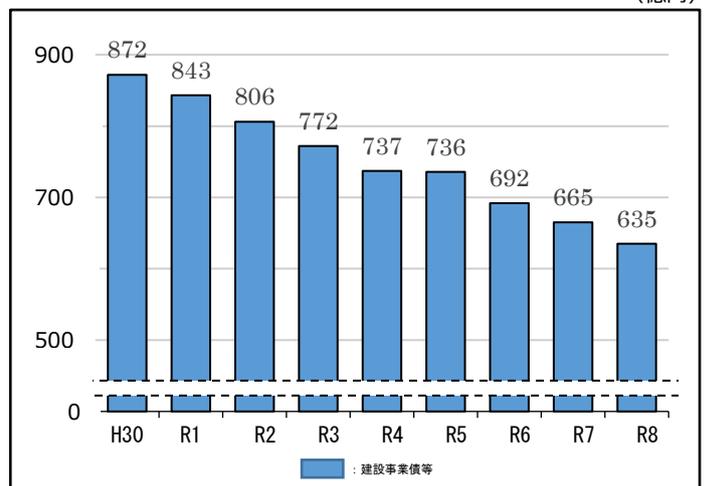
【グラフ①】財源調整のための基金残高の推移

(億円)



【グラフ②】市債残高の推移

(億円)



各部・局長 様

企画部長

令和6年度予算編成方針（依命通達）

1 日本経済の状況及び国の動向

我が国の経済状況は、内閣府が発表した9月の月例経済報告によると、「景気は、緩やかに回復している。」とし、先行きについては、「雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。」との認識を示している。

政府は、令和5年6月16日に「経済財政運営と改革の基本方針2023 加速する新しい資本主義～未来への投資の拡大と構造的賃上げの実現～（いわゆる「骨太の方針」）」を閣議決定し、「財政健全化の「旗」を下ろさず、これまでの財政健全化目標に取り組む。経済あつての財政であり、現行の目標年度により、状況に応じたマクロ経済政策の選択肢が歪められてはならない。必要な政策対応と財政健全化目標に取り組むことは決して矛盾するものではない。経済をしっかり立て直し、そして財政健全化に向けて取り組んでいく。」としており、当面の経済財政運営と令和6年度予算編成に向けた考え方として、「構造的賃上げの実現、官民連携による投資の拡大、少子化対策・こども政策の抜本強化を含めた新しい資本主義の加速や防衛力の抜本的強化を始めとした我が国を取り巻く環境変化への対応など、重要政策課題に必要な予算措置を講ずること等により、メリハリの効いた予算編成とする。」としているところである。

また、令和5年7月25日に「令和6年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」が閣議了解され、「令和6年度予算は『経済財政運営と改革の基本方針2023』、『経済財政運営と改革の基本方針2022』及び『経済財政運営と改革の基本方針2021』に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進する。ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない。歳出全般にわたり、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化する。」こととしている。

令和6年度の予算編成においては、これらの国の経済財政運営の動向など、本市予算への影響が大きい取組の情報収集に努め、十分留意する必要がある。

## 2 本市の財政状況と今後の見通し

本市の財政状況は、令和4年度決算を見ると、財政の健全性を示す健全化判断比率である実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率は、いずれも早期健全化判断基準を下回ったところである。

地方債残高については、平成21年度末の1,786億円をピークに年々減少を続けており、令和4年度末では対前年度56億円減の1,234億円となる一方、財源調整のための基金の残高は、災害級の豪雪に対応するための除排雪経費の増があったものの、国の臨時道路除雪費補助金や特別交付税を含む地方交付税を確保したことなどにより、対前年度約9億円増の58億円となったところである。

現在の本市を取り巻く財政環境は、高齢化の進展による医療・介護等の社会保障関連経費の増加や公共施設の老朽化に伴う改修・更新需要など、財政需要が今後も増加していくことが見込まれていく中で、歳入の根幹となる市税収入の大きな伸びは期待できず、厳しい環境にある。

また、日本銀行が7月に発表した「経済・物価情勢の展望」によると、「当面は、海外経済の回復ペース鈍化による下押し圧力を受けるものの、ペントアップ需要の顕在化などに支えられて、緩やかな回復を続けるとみられる。その後は、所得から支出への前向きの循環メカニズムが徐々に強まるもとの、潜在成長率を上回る成長を続けると考えられる。」との基本的見解が示されているものの、リスク要因として、「海外の経済・物価動向、資源価格の動向、企業の賃金・価格設定行動など、わが国経済・物価を巡る不確実性はきわめて高い。」とされていることから、依然として厳しく予断を許さない財政環境が継続すると見込まれるところである。

このため、今後の財政運営に当たっては、社会の変化に応じた新たな税源の涵養や財源の確保に努めるとともに、歳出全般については、事業の選択と集中を図りながら、今後の財政需要に的確に対応していかなければならない。

## 3 令和6年度予算編成の方向性

令和6年度は、「市民力+民間力 AOMORI 次なる舞台へ」のローガンの下、市民一人ひとりが力を合わせ、市民全員が参加して市政を作り上げていく市民力、そして、民間の企業や団体が力を合わせる民間力、その二つの力を集結させて、青森市を「みんなで未来を育てるまちに」するために進んでいく必要がある。

このような中、「青森市財政プラン（2019～2023）（令和5年10月ローリング版）」においては、歳入の根幹となる市税収入の大きな伸びは期待できないことから、国や県の交付金の活用など歳入確保に努めるとともに、歳出全般についても不断の見直しにより財源捻出を図っていかなければならない。

このため、令和6年度予算については、市長公約の「仕事をつくる」「人をまも

り・そだてる」「まちをデザインする」の3つの柱のもと、人口減少に立ち向かい、次なるステージに進むための未来を育む事業への予算の重点化を図るものとする。

一方、エネルギー価格や物価高騰の地域経済への影響の長期化により、地方財政を取り巻く環境は厳しさを増している中、将来にわたって安定した行政サービスを提供していくためには、歳出全般について不断の見直しを行うとともに、市経済の発展と雇用の創出による税収確保に努め、「青森市財政プラン（2019～2023）（令和5年10月ローリング版）」における令和8年度末の基金残高60億円の確保や市債残高の縮減の達成という目標を堅持し、都市間競争力の基盤となる、持続可能な財政運営の確立を図っていかなければならない。

よって、当初予算編成に当たっては、昨年度と同様、前年度当初予算における一般財源をベースに調整を行った上で、財源を配分することから、事業点検による事務事業の見直しを図るとともに、下記事項に留意して令和6年度の予算要求に当たられたい。

以上、命により通達する。

## 記

### 基本方針

令和6年度当初予算は、次の方針を基本として編成することとする。

#### 1 予算要求に当たっての予算要求配分枠の設定

令和6年度当初予算編成は、昨今のエネルギー価格や物価高騰による影響に配慮する観点から、既存の政策的経費を対象とした一般財源ベースのマイナスシーリングを行わずゼロシーリングとし、それを反映させた予算要求配分枠の設定を行う。

#### 2 財源調整のための基金取崩しの抑制

厳しい財政環境の中、増大する行政需要に的確に対応しつつ、歳入に応じた持続可能な財政を維持していくためには、財源調整のための基金残高を確保しながらも、単年度における収支の均衡を図り、原則として基金に頼らない財政運営を行っていく必要がある。

市税収入等の大幅な伸びが期待できず、義務的経費の増加などにより一般財源の不足が見込まれることから、令和6年度の予算編成に当たっては、真に必要な事業を厳選し、可能な限り一般財源の圧縮に努めることとする。

### 3 投資的経費に充当する新規市債発行額の抑制

投資的経費にあつては、市債の有効活用を図ることとするが、将来における公債費の増大による財政の硬直化を避け、財政の健全性を高めていく必要があり、実質公債費比率及び将来負担比率の数値に留意しながら、今後も引き続き市債発行額を抑制し、できるだけ市債残高を増大させない努力が求められる。

このため、令和6年度においては、今後の大規模事業に伴う市債残高の増加も見据えながら、投資的経費に充当する新規の市債発行額の抑制に継続的に取り組むこととする。

## 個別編成方針

令和6年度当初予算における個別編成方針は、次のとおりとする。

### 1 歳入・歳出予算の編成に関する事項

#### (1) 年間予算の徹底と予算見積り

当初予算は一会計年度における全ての歳入・歳出の見積りである。このことから、補正予算については、当初予算の段階で想定し得なかった制度改正、災害、施設・設備の破損、給与改定等に限り措置することとしているため、当初予算の要求に当たっては、事務事業の内容及び年間スケジュールを十分に精査し見積もること。

#### (2) 歳入予算

市税等の自主財源の大幅な伸びが期待できない現在の経済状況下においては、国・県補助金等を積極的に活用しつつ、将来の財政負担をも見据えた市債発行などによる安定的な財政運営を行う必要がある。

事業を実施するためには、その財源が必要であるということを職員一人ひとりが常に意識しながら、事業の構築に当たっては歳入の確保を念頭に置くよう努めること。

##### ① 一般財源

市税及び地方譲与税を始めとする一般財源については、財政運営上の根幹をなすものであることから、今後の経済情勢及び国の制度改正などの動向を見据えながら、的確な収入見込額を算定すること。

また、各部局が所管する土地等の未利用財産は、自主財源を確保するため、金額の多寡にかかわらず処分を積極的に検討し、可能なものは早急に処分すること。

## ② 特定財源（市債を除く）

当初予算編成における一般財源には限りがあることから、積極的な特定財源の確保に努めることとし、国・県補助金をはじめ各種団体等の助成金などについて、積極的な活用を図ること。

使用料・手数料については、これまでの実績を踏まえながら、的確な収入見込額を算定すること。

また、広告収入については、企業広告やネーミングライツなどの積極的な導入を図り、新たな自主財源の確保に努めること。なお、ネーミングライツについては、これまでの「施設特定型」のネーミングライツに加え、ネーミングライツを設定する施設、期間、金額等の提案を公募する「提案募集型」のネーミングライツの活用にも留意すること。

## ③ 市債

起債の対象となる事業については、過去の予算措置状況や別に通知する作業要領を参考に、確実に要求すること。なお、対象事業及び起債額について、必要により財政課に相談すること。

## ④ その他（収納対策関連）

市税をはじめとした歳入金については、負担の公平性の観点等から、それぞれの歳入金の性格に応じ、課税客体等の完全捕捉や滞納整理の強化に努め、収納向上に特段の意を用いることにより、歳入確保を積極的に図ること。

## （3）歳出予算

厳しい財政状況の中、限られた財源を有効活用し事業の選択と集中を図る必要があることから、令和6年度の予算編成においては、スクラップ・アンド・ビルドの徹底により歳出予算を抑制しながら、今後の財政需要に的確に対応することとする。

よって、既存事業については、事業目的や成果目標に照らしながらゼロベースから検証し、所期の目的が達成された事業、民間で対応可能な事業、費用対効果の低い事業等は、廃止や再構築を前提に、重点的に見直しを行うこと。

新規・拡充事業については、これまでの取組や将来需要を検証し、事業の必要性や事業効果、さらに後年度負担等についても十分に検討したうえで、下記の「事業区分ごとの見積基準」の範囲内で予算要求を行うこと。ただし、令和6年度からの実施が既に市の方針として決定している事業については、所要見込額による要求を受け付けるものであること。

## 事業区分ごとの見積基準

(※一般財源ベース、ただし、投資的経費は「市債」＋「一般財源」ベース)

### ① 人件費

職員給与費等については、定員管理計画などに基づく所要見込額とする。

### ② 公債費

償還額に基づく所要見込額とする。

### ③ 政策的経費

法令等による実施義務が認められる義務的事業は所要見込額（経費積算に市の裁量があるものは既存取組分のみ）とする。また、裁量的事業のうち、法令等による実施義務はないものの、義務的内容であり、政策上廃止が困難な事業については、対象者の増減等による自然増減を除き、令和5年度当初予算額（特殊分<sup>\*</sup>を除く）以内の額で要求すること。

また、行財政改革を推進する事業は所要見込額とする。

それ以外の事業については、シーリングの対象とし、令和5年度当初予算額（特殊分<sup>\*</sup>を除く）以内の額で要求すること。

なお、扶助費については毎年経常的に支出され、年々増加が見込まれる経費でもあるため、その成果を常に検証し、事業の見直しと経費削減に努めること。

その他、必要な事項については、別途指示する。

<sup>\*</sup> 隔年又は単年度で発生するイベントや計画どおり終了した事務事業などの自然減分  
＝当該年度限りの経費

### ④ 投資的経費

公共事業見込額調書に掲げた各事業の市債及び一般財源を基準とし、次のとおりとすること。要求に当たっては、事業内容の精査を行い、可能な限り事業費を圧縮し、市債及び一般財源の抑制に努めること。

(a) 既定計画事業は、公共事業見込額調書に掲げた各事業の基準の範囲内

(b) (a)以外の事業は、前年度予算額以内

### ⑤ 施設管理費

燃料費、光熱水費、維持修繕料等の特殊経費は所要見込額とするが、それ以外の経費については、令和5年度当初予算額（特殊分を除く）以内の額とすること。

施設管理費のうち、指定管理料については、指定管理料提案額の範囲内における所要見込額を原則とすること。

## ⑥ 一般管理費

特殊経費は所要見込額とするが、それ以外の経費については、令和5年度当初予算額（特殊分を除く）以内の額とすること。

## ⑦ 繰出金等

企業会計及び特別会計（企業会計以外）（以下「特別会計等」という。）への一般会計からの繰出金については、関係法令及び国が定めた繰出基準の額を基本とすること。ただし、一般会計の財政状況に鑑み、特別会計等の収支を勘案した上で繰出基準未満での繰出と整理をした特別会計等への繰出金については、繰出基準の額にかかわらず、令和5年度当初予算の額を基本とするので、協力されたいこと。

また、令和5年度において繰出基準以上に繰出を行っている特別会計等についても、令和5年度の予算編成において整理をした額を上限とすること。なお、当該特別会計等については、各会計において策定している経営改善に向けた計画等における取組を着実に実行するとともに、可能な限り繰出金の抑制を図ること。

一部事務組合等の分担金等についても、一般会計と同様の考え方とすること。

<事業区分ごとの要求基準一覧表>

事業区分		説明	要求基準
義務的経費	人件費	特別職・職員給与費	定員管理計画に基づく所要見込額
	公債費	市債償還金	所要見込額
	義務的経費(A・B)	A:法律等により実施義務があるもの B:Aのうち経費積算に市の裁量があるもの	所要見込額 (※経費積算に市の裁量がある事業は既存取組分のみ所要見込額)
	施設管理費	施設管理経費	★ シーリング 前年度予算額以内 (指定管理料は所要見込額(提案額の範囲内))
	一般管理費	事務費	
	積立金	基金への積立金	所要見込額
裁量的経費	裁量的経費A	法律等による実施義務は無いが、義務的内容であり、実質的に廃止することが困難な事業	自然増減を除き前年度予算額以内
	裁量的経費B	裁量的事業	★ シーリング (前年度予算額以内)※特殊経費は認めない
	裁量的経費C	裁量的事業で年次変動が大きい事業	所要見込額 (※隔年経費は前回予算額以内)
	行財政改革推進経費	行財政改革を推進する事業	所要見込額
	投資的経費	普通建設事業、災害復旧事業 (既定計画事業を除く)	★ シーリング (前年度予算額以内)
繰出金等	特別会計・企業会計繰出金、広域事務組合負担金	繰出基準等による (※7頁記載のとおり)	

「前年度予算額」：令和5年度当初予算額

※特殊経費について

裁量的経費Bを除く、要求基準を前年度予算額以内とした事業について、特殊経費として認める(所要見込額での要求が可能)のは右表のものとする。

- 1 燃料費
- 2 維持修繕・一般修繕料
- 3 光熱水費、電話料
- 4 指定管理料
- 5 法定経費
- 6 将来の負担が決まっているもの(債務負担設定済経費、公課費、償還金等)
- 7 隔年経費(新規を除く)
- 8 行財政改革の推進に資する経費

#### (4) 予算要求配分枠

- ・各部局の前年度当初予算等を基本に計算を行った上、各部局に一般財源等の配分を行うこと。
- ・枠配分額の算出に当たっては、小事業ごとに積み上げる方式を採っているが、この方式は部ごとの総枠を算出するものであって、各小事業や所属課の配分額を定めたものではない。従って、要求に当たっては、部内での調整を図りたいこと。
- ・「青森市ふるさと応援寄附制度」による寄附は、9月30日現在で集計を行い、各部局へ示すので有効活用すること。
- ・令和5年度中に補正予算対応等により追加実施する事業のうち、その財源を捻出することができない場合は、令和6年度配分額の前倒し対応とみなすものとする。

#### (5) 特別会計及び企業会計

特別会計についても、上記の見積基準等によること。

また、企業会計においても、上記見積基準を参考として予算を編成されたいこと。

#### (6) その他留意事項

##### ① 国・県の予算編成への対応

国及び県の施策や予算編成の動向に十分に注意し、関係する事業についての情報を的確に把握すること。

なお、国及び県において補助（負担）事業が廃止・縮小された場合には、これに替わる地方財政措置等がなされるものを除き、事業そのものを廃止・縮小すること。（取組を継続する場合には、各部局で財源捻出すること）

##### ② 施策評価及び事業点検結果の反映

8月から9月に行った施策評価及び事業点検の結果を踏まえ、予算要求すること。

事業点検に伴い予算要求する新規・拡充事業のうち、別途指定した事業（市長重要政策枠及び連携枠）については、予算要求配分枠とは別に所要額を要求可能であること。なお、継続事業については、シーリングの対象となることから、検証に基づく見直しを踏まえ予算要求すること。

予算要求の際の事業区分については、財政課と協議すること。

##### ③ 予算執行抑制加算の設定

令和5年4月以降の予算執行段階において、事務事業や業務の改善により、

コストの削減が図られるものについて、削減見込額の2分の1を令和6年度の予算要求枠に加算するものとする。

④ 地域課題や市民ニーズの把握

多様化・複雑化する地域課題や市民ニーズの把握に努めた上で、新規事業の創設や事務事業の見直しを行うこと。

2 今後の調整等に関する事項

(1) 予算要求配分枠等の調整 10月16日(月)～10月23日(月)

(2) 要求締め切り

- ・ 予算見積等(管理費等) 10月24日(火) 正午
- ・ 予算見積等(政策的経費等) 10月31日(火) 正午

(3) 財政課ヒアリング日程

10月下旬～12月上旬(詳細については、財政課各担当から別途通知)

(4) 予算内示・復活折衝及び市長査定

令和6年1月中旬に予算案を内示後、復活折衝を経て1月下旬より市長査定を行う。

# 青森市財政プラン

(2019~2023)

《令和5年10月ローリング版》

令和5年10月





## 目 次

1	はじめに .....	1
2	中期財政計画における目標 .....	1
3	中期財政見通し .....	1
	（1）前提条件等 .....	1
	（2）推計方法 .....	2
	（3）中期財政見通しに反映した主な普通建設事業等 .....	3
	（4）財政の健全性確保対策 .....	3
	（5）中期財政見通し .....	4
<b>参考 1</b>	<b>財源調整のための基金残高の状況 .....</b>	<b>5</b>
<b>参考 2</b>	<b>市債（借入）残高の状況 .....</b>	<b>5</b>

## 1 はじめに

本市では、持続可能な財政運営のための指針として、令和元年10月に、令和元年度から令和5年度までの5年間を計画期間とした「青森市財政プラン（2019～2023）」を策定しました。このプランでは、財政の健全性を維持するため、中期的な財政収支の見通しとなる中期財政計画が位置付けられています。

中期財政計画は、策定時点における一定の前提条件の下に推計したものであるため、国における制度改正や各年度の決算や予算編成状況等を踏まえ、毎年度、ローリング（時点修正）を行うこととしています。

## 2 中期財政計画における目標

### （1）令和8年度末における財源調整のための基金残高60億円確保

国・県及び本市の経済対策や、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う経済活動の再開による税収の確保及びスクラップ・アンド・ビルドの徹底等により、令和8年度末の基金残高を60億円確保することとします。

### （2）市債発行額の抑制による市債残高の縮減

## 3 中期財政見通し

### （1）前提条件等

- ① 令和4年度ローリングと同様に令和8年度までの財政見通しとして作成しました。
- ② 推計の起点は、令和4年度決算額と令和5年度9月補正後予算額としています。
- ③ 財政見通しは、令和5年度一般会計9月補正後予算額をベースに、今後予定されている制度改正等を反映させたほか、「（2）推計方法」により推計しています。
- ④ 令和6年度以降の見通しには、年度間の財源調整に用いる財政調整積立金等の繰入金や繰越金は見込まないものとします。

## (2) 推計方法

### ① 歳入

科目	推計方法
市税	<ul style="list-style-type: none"><li>・個人住民税は、税制改正の影響を計上。</li><li>・固定資産税は、評価替や償却資産の新幹線特例縮減等の影響を計上。</li><li>・軽自動車税は、税制改正の影響を計上。</li></ul>
譲与税及び交付金	<ul style="list-style-type: none"><li>・森林環境譲与税及び自動車税環境性能割交付金、地方特例交付金は制度改正等の影響分を計上。</li></ul>
地方交付税	<ul style="list-style-type: none"><li>・普通交付税は、令和5年度の交付決定額を基準とし、市税収入の増減や事業費補正の影響などを計上。</li><li>・特別交付税は、過去の交付決定額を基にして計上。</li></ul>
国・県支出金	<ul style="list-style-type: none"><li>・歳出における扶助費や普通建設事業費の見込み等を考慮して計上。</li></ul>
市債	<ul style="list-style-type: none"><li>・臨時財政対策債は、普通交付税の試算を基にして計上。</li><li>・投資分については、普通建設事業費の推移に応じて計上。</li><li>・今後の借り換え予定額を計上。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・年度間で変動があるもの以外、令和5年度予算を基本とし計上。</li></ul>

### ② 歳出

科目	推計方法
人件費	<ul style="list-style-type: none"><li>・定員管理計画による職員数を基本として計上。</li></ul>
扶助費	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和5年度予算に対象者や事業費の伸び率等を反映して計上。</li></ul>
公債費	<ul style="list-style-type: none"><li>・既発債分は、償還計画に基づく額を、一時借入金利子については、令和5年度当初予算と同額を計上。</li><li>・新発債分は、普通建設事業費に係る市債借入見込額を元に計上。</li><li>・今後の借り換え予定額を計上。</li></ul>
普通建設事業費	<ul style="list-style-type: none"><li>・経常的事業は、令和5年度当初予算と同額を計上。</li><li>・既定計画事業は、現在の計画期間及び計画額で計上。</li><li>・推計上見込んだ主な事業は、「(3) 中期財政見通しに反映した主な普通建設事業等」のとおり。</li></ul>
繰出金	<ul style="list-style-type: none"><li>・特別会計繰出金、企業への繰出金、一部事務組合への負担金をそれぞれの見込に基づき計上。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・年度間で変動があるもの以外、令和5年度予算を基本とし計上。</li><li>・物価高騰の影響を見込んで計上。</li></ul>

### (3) 中期財政見通しに反映した主な普通建設事業等

下表は、令和5年度当初予算編成を踏まえ中期財政見通しに反映した主な普通建設事業等です。計画を作成する上で取り入れたものであり、スケジュールや事業費を決定したものではありません。

No	事業名	事業費	(単位：億円)				事業期間 (計画期間内)
			国県	市債	その他	一般財源	
1	小・中学校整備事業 (筒井小、造道小ほか)	196.3 (122.6)	65.9 (43.5)	107.1 (67.0)		23.3 (12.1)	H24～ (R1～R8)
2	青森市斎場建替事業	24.8 (24.8)		18.8 (18.8)		6.0 (6.0)	R6～R8 (R6～R8)
3	次期情報システム整備事業	28.8 (28.8)	11.9 (11.9)			17.0 (17.0)	R2～R7 (R2～R7)

### (4) 財政の健全性確保対策

#### ①歳入確保及び歳出抑制

##### 予算要求枠の設定

- a 裁量的事業（ソフト事業） 令和5年度当初予算額と同額 (※変更)
- b 施設管理費及び一般管理費 令和5年度当初予算額と同額 (※昨年度と同じ)
- c 裁量的事業（ハード事業） 令和5年度当初予算額と同額 (※変更)

#### ②市債発行の抑制

今後の大規模事業に伴う市債残高の増加も見据えながら、投資的経費に充当する新規市債発行額の抑制に継続的に取り組むこととします。

[シーリング設定の考え方] (※令和6年度当初予算編成方針を前提)

事業区分		説明	要求基準
義務的経費	人件費	特別職・職員給与費	所要額
	公債費	市債償還金	
	義務的経費(A・B)	法令による実施義務があるもの 債務負担行為に基づくもの	
	施設管理費	施設管理経費	前年度同額
	一般管理費	事務費	
	積立金	基金への積立金	所要額
裁量的経費	裁量的経費A	準義務的事業	既存分所要額
	裁量的経費B	裁量的事業	前年度同額
	裁量的経費C	裁量的事業で年次変動が大きい事業	別途指定
	行財政改革推進経費	行財政改革を推進する事業	所要額
	投資的経費	普通建設事業、災害復旧事業 (既定計画事業を除く)	前年度同額
繰出金等		特別会計・企業会計繰出金、広域事務組合負担金	上記に準ずる

(5) 中期財政見通し

(単位:百万円)

		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
		決算額				9月補正後 (繰越含む)	推計値(参考)		
歳入	市税	34,364	33,596	34,065	34,298	34,242	34,344	34,411	34,465
	譲与税・交付金	6,827	8,078	9,398	9,110	9,330	8,750	9,357	9,963
	地方交付税	26,539	26,883	30,106	29,230	27,170	28,677	27,986	27,455
	国・県支出金	36,115	70,147	51,289	46,888	44,458	36,987	37,919	37,176
	市債	14,554	12,135	11,172	7,894	9,718	8,085	9,434	6,201
	その他	12,905	10,302	8,053	11,029	6,772	5,591	5,775	6,581
	歳入合計 ①	131,304	161,141	144,083	138,449	131,690	122,434	124,882	121,841
歳出	義務的経費	72,013	72,334	78,340	72,270	68,667	71,417	71,139	69,386
	人件費	12,173	13,531	13,401	13,930	13,586	13,804	13,581	14,404
	扶助費	41,831	41,940	49,093	44,330	41,766	42,037	42,331	42,646
	公債費	18,009	16,863	15,846	14,010	13,315	15,576	15,227	12,336
	普通建設事業費	13,347	9,961	11,055	8,685	14,333	7,109	8,373	7,808
	繰出金	21,320	21,366	21,893	21,360	22,028	22,528	22,523	22,283
	うち公営企業・準公営企業	6,183	5,848	5,956	5,452	5,144	5,091	4,990	4,874
	その他	21,497	54,828	27,695	30,746	29,496	22,858	24,289	23,795
	歳出合計 ②	128,177	158,489	138,983	133,061	134,524	123,912	126,324	123,272
	歳入歳出差引③ (①-②)	3,127	2,652	5,100	5,388	△ 2,834	△ 1,478	△ 1,442	△ 1,431
翌年度への繰越財源 ④	506	245	228	228	0	0	0	0	
実質差引 ⑤(③-④)	2,621	2,407	4,872	5,160	△ 2,834	△ 1,478	△ 1,442	△ 1,431	

※1) R元年度～R4年度は決算額のため、歳入(その他)に前年度からの繰越金及び基金取崩が含まれています。

※2) R5年度は9月補正後予算額に、前年度からの繰越金を含んでいます。

※3) R6年度は予算ベースでの推計であるため、各年度、決算剰余金は発生しないものとして繰越金及び基金取崩額は計上していません。

※4) 各年度の市債及び公債費には市債借換分が含まれています。

【財政調整基金残高】

(単位:百万円)

区分		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
		決算額				9月補正後 (繰越含む)	推計値(参考)		
A	前年度末 財源調整基金残高					5,843	5,609	5,731	5,889
B	当初予算での財源不足額					△ 2,834	△ 1,478	△ 1,442	△ 1,431
C	予算取崩額と決算取崩額の差 (年度末に取り崩す必要がなくなる金額)						1,600	1,600	1,600
D	年度末での実質的な財源不足額 (B+C)					△ 2,834	122	158	169
E	決算剰余金1/2以上の積立					2,600	0	0	0
F	年度末 財源調整基金残高 (A+D+E)	4,129	4,114	4,937	5,843	5,609	5,731	5,889	6,058

R8年度末の財源調整基金残高は60億円を確保。

【市債残高】

(単位:百万円)

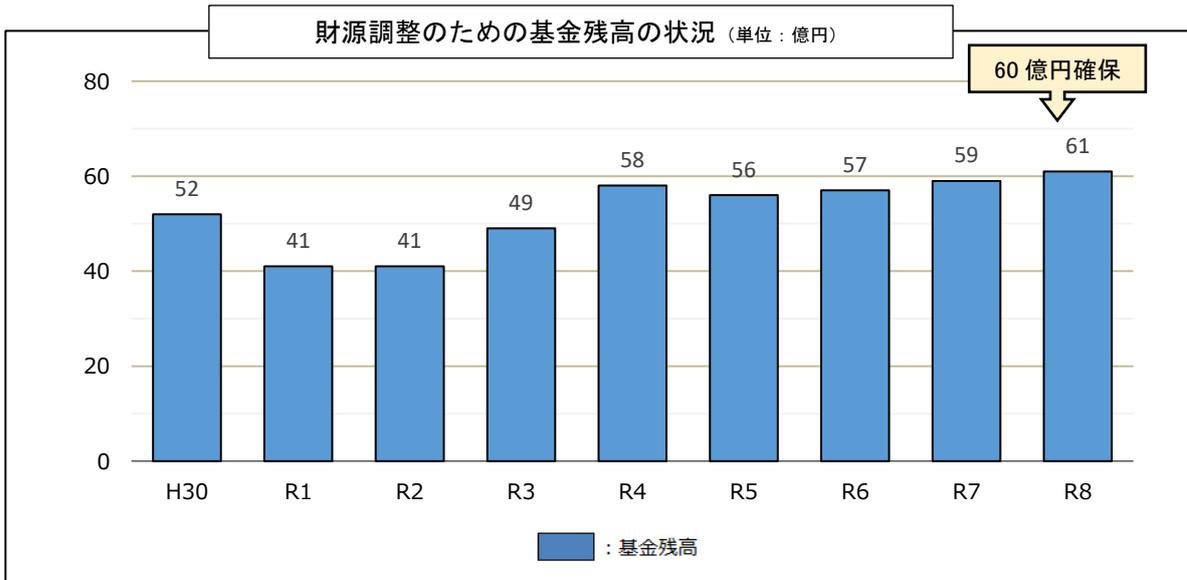
区分		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
		決算額				9月補正後 (繰越含む)	推計値(参考)		
市債残高		136,925	133,006	128,986	123,426	120,404	113,459	108,221	102,648
(うち建設事業債等)		84,349	80,594	77,205	73,674	73,569	69,190	66,525	63,469
(うち臨時財政対策債)		52,576	52,412	51,781	49,752	46,835	44,255	41,694	39,095

R8年度末の市債残高は635億円。

### 参考 1 財源調整のための基金残高の状況

経済事情の変動による大幅な税込減や、災害の発生等による支出の増加など、予期しない収入減や不測の支出増加等に備え、「財政調整積立金」、「市債管理基金」の2つの基金を、60億円の確保を目標に積み立てします。

財源調整のための基金残高 令和8年度末60億円確保

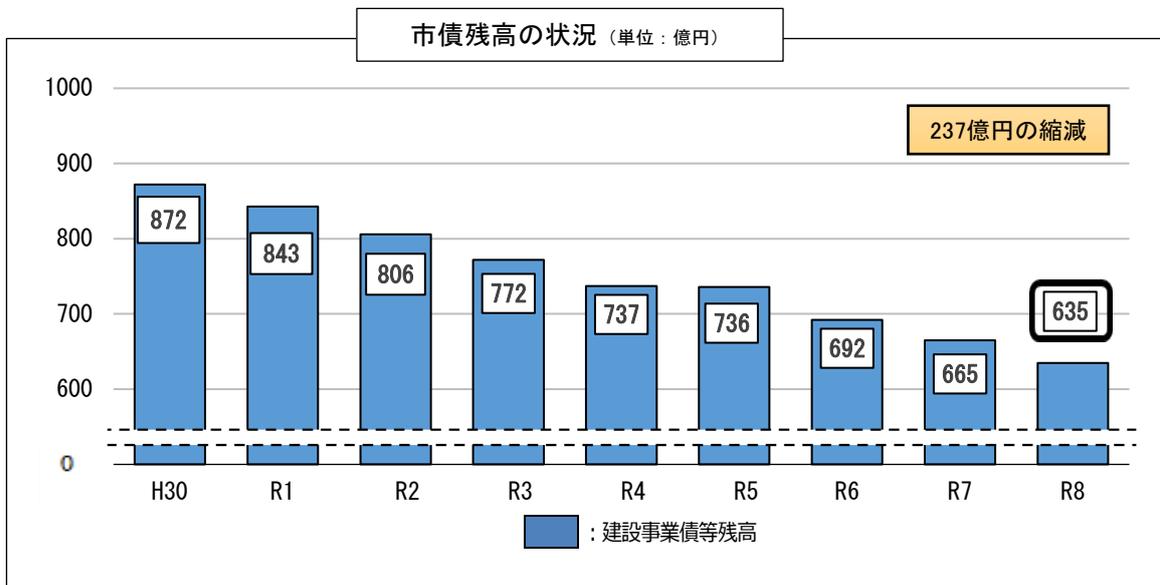


### 参考 2 市債（借入）残高の状況

市債は、学校施設や道路などの建設財源として調達しています。市債の発行により、建設費用を将来世代も含めて平等に負担することができます。

引き続き市債発行額の抑制に努め、市債残高の縮減を図ります。

市債残高の縮減 令和8年度末△237億円 (H30との差)





---

青森市財政プラン（2019～2023）

【令和5年10月ローリング版】

---

■作成年月 令和5年10月  
■お問合せ先 青森市企画部 財政課  
〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22番5号  
電話番号 017-734-5187 FAX 017-734-5180

---